

〔重修本草綱目啓蒙十五〕忍冬 ス。○。カ。ヅ。ラ。 ス。○。ス。○。カ。ヅ。ラ。 播州 ス。○。バ。ナ。カ。ヅ。ラ。 雲州 一

名木楊藤東醫寶鑑 甜藤附方 老公鬚青蒲縣志 金銀藤同上 過東藤藥性要略大全 左絞藤藥方 鴛鴦

草群芳譜 左紐廣東新語 金銀花草鄉藥本草 苧冬傷草品字 環兒花事物異名 蜜吸花三因方 增一

名左轉藤遊生八牋

山野最多シ、樹ニ纏フテ繁延ス、葉兩對ス、形橢ニシテ尖リ毛アリ、春新葉ヲ生ズ、菊葉ニ似タル者アリ、圓葉ノ者アリ、皆一根ヨリ變生ス、別種ニ非ズ、四月葉間ニ花ヲ開ク、香氣アリ、一蒂ニ花一節四分レ、下一瓣ハ狹シテ分レズ、内ニ五ツノ白藥及心アリ、蕾ノ時ハ淡紫色、初テ開ク者ハ白色ニシテ微紫ヲ帶ブ、日ヲ經テ白ニ變ジ、淺黄ニ變ジ、深黄ニ變ジテ落ツ、故ニ一枝中黄白相映ズ、故ニ金銀花ト名ク、土州ニテスヒバナト呼ブ、藥用ノ金銀花コレナリ、又一種花開テ紅色ナルモノアリ、共ニ花後兩圓實一蒂ニ生ズ、一ハ大一ハ小、熟シテ色黒シ、一種肥後ノ産ハ葉大ニシテ厚シ、花モ亦大ナリ、一種金銀木、一名ヒヤウタンノ木ト呼モノアリ、木本ニシテ高サ五六尺、葉ハ忍冬葉ニ似テ小ク、花モ黄白雜リテ忍冬ノ如クナレドモ、毒アリテ別物ナリ、ソノ實忍冬實ヨリ大ニシテ色赤ク、一蒂ニ大小並ビテ細腰壺盧ヒヤウタンノ如シ、故ニヒヤウタンノ木ト云フ、即救荒本草ノ吉利子樹ナリ、

〔廣益地錦抄五〕忍冬 俗にすいかづらといふ、花さき出にはしろく、二三日を過て黄色に成故に金銀花と云、春かづらの出るをつみ切て、ひたし物にして食、葉をほして茶にせんじて用、甚益ありといへり、冬葉あり、人手足をいたみしびれ、あるひはくぢきたるに、かづらを湯にせんじ、浴湯にすべし、又馬足いたむにせんじて洗、此草藪に多生ゆへ、おろそかにおもひ、人參は價高直成ゆへ大事にせり、人參にまさりたる功能あるをしらすと、唐人は笑ふといへり、